

議会のあり方調査特別委員会 議会ICT検討分科会 記録

開 会 年 月 日	令和8年2月4日
開 会 時 刻	午前9時59分
閉 会 時 刻	午前10時42分
出 席 委 員 名	◎宮崎 誠 ○中村栄治 神谷明子 山木英樹
	吉井詩子 岡田善行 吉岡勝裕
欠 席 委 員 名	なし
署 名 者	—
担 当 書 記	森田晃司
協 議 案 件	1 今後の協議の進め方について ・ 検討項目の確認
	2 タブレットPC更新について
説 明 員	森田書記

## 会議の概要

宮崎会長が開会を宣告。その後、直ちに会議に入り、「今後の協議の進め方について」外1件を順次議題とし、協議を行い、分科会を閉会した。

なお、詳細は以下のとおり。

## 協議の内容

### 1 今後の協議の進め方について

#### ・検討項目の確認

宮崎会長から、資料1「これまでの実績と来期へ向けた申し送りについて【議会ICT検討分科会】」に沿い、別紙のとおり、「前期における議会ICT検討分科会の活動実績」、「今期への申し送り」について説明があった。「今期への申し送り」については、それぞれの申し送り事項についての説明があり、委員に発言を求めたところ以下のとおり発言があり、その後、この程度とした。

#### 【発言】

- ・吉岡委員「パソコンの更新であったりSNSであったりまだできてないところがあるので、ぜひそれは早く進めていきながら、また会派でも相談させていただきたい。また、SNSの活用については、Facebookであったり、議会を身近に感じてもらうために広報広聴検討分科会とも話をしていくべき内容だと思う。この辺も研究していきながら進めていきたい。そして、私たちは市民の代表ということでもあるので、できればそういうことを活用しながら議員力が議会力につながっていくだろうと普段から思っている」
- ・岡田委員「確かにSNSは今はやりだが、活用方法によってはいろいろな弊害が出る可能性がある。広報広聴検討分科会との兼ね合いもあるので、ルールづけを含めて活用するのか、活用しないのかも、検討していくべきだと思う。まず各会派に持ち帰らせてほしい。また、タブレットPCの更新とか、この勉強会っていうのはやっていくべきだが、議員間のデジタルディバイド対策、こちらについては、新議員がどの程度のレベルかというのをまず把握をして、それから対策を進めていければよい」
- ・吉井委員「SNSの活用については、前期にいろんな課題があるということでそれ以降ずっと議論してこなかったが、状況が変わってきている。フェイクであったりとかいろんなことに対する心構え、ICTを通して本質的に真実を見極める目を育てていくというような、本分科会でも政策等検討分科会に負けないような深い議論をしていけるようにしたい」
- ・神谷委員「SNSも様々なものがある。最近多いのは、Xやインスタグラムだと思う。それぞれに結構特色があって活用というのは一言で言うのが難しい。デジタルディバイド対策は、私は同世代の中では、そこまで得意なほうではないので、意見を言うにはほどよい人材と自負している。私のできない部分も含め、いろいろ意見を言わせていただければなと思っています」
- ・山木委員「SNSに関してはうまく活用できればすごくいいツールになると思うが、それが批判の対象になるようならルールをつくっていくべき。急いで活用する必要もないと思うので、広報広聴検討分科会と協議しながら進めていければと思う。あと、私もデジタルに強いほうではないので、こういう分科会に入らせてもらった限りは、もう少し皆さんに

も教えていけるような知識を持ちたいと思うので、勉強会をしてもらいたい。タブレットPCの更新については、物価高騰で、スペックとかを考えてしまうと高いPCになるといけないので、予算のほうも妥当な線で検討していきたい」

- ・中村栄治副会長「そもそもICT化っていうのは紙資料を減らすためにやるものだと思う。これからタブレットPCを選定していくが、現端末を使いこなせている人はそんなにいない。使いやすく、もうちょっと画面を大きくするという簡単な部分、それと紙の資料を減らしていけるような動きを中心にやっていきたい。SNSに関しては賛否両論の部分があるので、じっくりと話をし、ちょっとやめとこうかっていうのも方向性としては持ちつつ話をしていきたい。また、皆さんの御意見いただきながら、会長と一緒に進めていきたい」
- ・宮崎会長「タブレットPC更新の話は皆さんが使いやすい形のものを選択していくってことと、ペーパーレスに関しては、これまで取り組んできたが、様々な資料、紙媒体でないと見づらい面もあるが、データとして集約する、もしくは自分の一般質問とか、議会内での質問、委員会での質問とかで活用する際にはデータ化してあることで、即時どの場でも見れるっていう状況にもなる。資料のつくり方も当局側と会話を通じて自分が把握した上で市民の方に説明がしやすい、そんな状況を作れるような形も必要かなと思う。SNSは、私達が情報発信したときにそれが誤情報で、それで議員同士の傷つけ合いになることがないようにルールづくりが必要と思う。勉強会については積極的に取り組めるように意見をいただく形で進めさせてもらいたい」

## 2 タブレットPC更新について

宮崎会長から、令和8年度にタブレットPCの更新を予定しており、本分科会で機種を選定を予定していること、その更新に向けて前期に全議員を対象にタブレット更新のためのアンケートを実施したことを説明。議会事務局からそのアンケートの結果についての説明があり、また、宮崎会長から新議員の意見を吸い上げる必要があるため、11名の新議員にも同じアンケートを実施したい旨の説明があった。議題の中で新たに導入するタブレットPCについて、委員に発言を求めたところ以下のとおり発言があった。

### 【発言】

- ・神谷委員「(現行機種は)持ち歩くのに重いため、もう少し軽いと助かる」
- ・山木委員「タッチペンはなくてもよい。次は、軽くて見やすいので画面14インチくらいでもいいのでは」
- ・中村栄治副会長「家に持って帰るときに邪魔なのは充電器。現行機種は電池の消耗が激しいため、1回充電したら3日持つものがよい。ストレージ容量については、新しい機種にすればおのずと増えると思うが、使いこなせてないため、足りているのかは分からない」
- ・吉岡委員「タブレットよりノートパソコンのほうが不具合に強いと思う。画面が大きくなってバッテリーが大きくなれば重くなるのは当然なので、バランスを取ってそれなりのものにすればよい。ストレージ容量の不足はUSBメモリを活用すればよい」
- ・岡田委員「議員がノートパソコンもタブレットも持つのはもったいないという話で2in1のタブレット(現行機種)にした。政務活動費を使って買わなくてよいことを考えると、タブレットでもノートパソコンでもどちらでもよい。予算書は2ページ表示にしないと見に

くいため、ある程度の画面の大きさが必要。ただ、本体を大きくすると議場の机が小さくしてほかに何も置けないという問題が出てくる」

- ・吉井委員「あまり使いこなせていないため、ストレージ容量とかはよく分からない。タッチペンはなくてもよい。本体が重いのは慣れた」
- ・宮崎会長「画面サイズが大きくなればその分重くなる。現行機種はキーボードを外せば重量が少し軽くなる。資料を見るのは画面 16 インチが一番見やすい。それがかばんに入るかどうかという点は検証をさせてもらいたい。議員が普段使うものという考えで、ノートパソコンでもよいと思っている。ストレージ容量の最低ラインは今 (128GB) の倍 (256GB) は必要。議場の机のスペースが足りない問題についてはおいおい考えさせてもらいたい」

上記署名する。

令和 8 年 2 月 4 日

会 長